

データ細分化による統計量の抽出と WebGIS 可視化による政策決定支援システム

長瀬 永遠

富山県立大学 情報基盤工学講座

July 30, 2021

研究の背景

リーマンショック以降、年々減少していた日本の自殺者数が昨年、11年ぶりに増加したことが話題になっている。また、近年の自殺者数は平成10年代と比較すると概ね減少傾向にあるが、若年層世代の死因第一位は依然として「自殺」であり、死因の3割～5割がこれにあたる。この数値は他の先進国と比較しても極めて高い値となっている。

研究の目的

包絡分析法（DEA）を用いて地域特性を分析することで、対象地域の潜在的な自殺を誘引する要因、自殺を遠ざける要因の発見を支援する WebGIS ツールを作成する。



図 1: システムのイメージ図

- 1 GIS でコロプレスマップを扱えるようにする.
- 2 各種データを自動的にスクレイピングできるようにする.
- 3 データ同士の相関をもとめるシステムを作る.
- 4 分析法を用いて結果を GIS に表示するシステムを作る

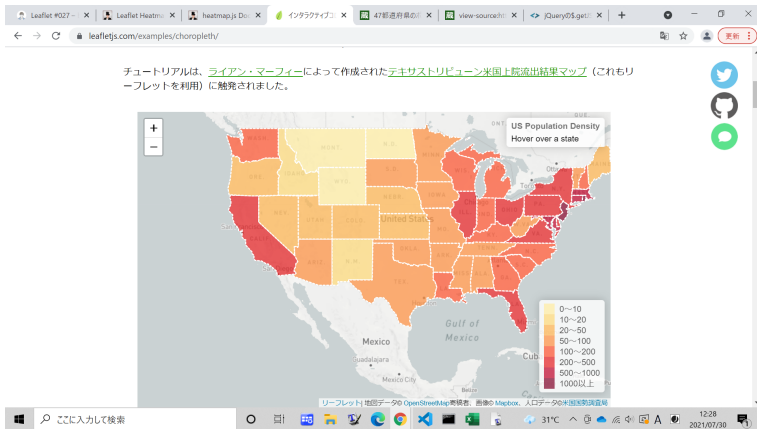


図 2: コロプレスマップ

- 1 コロプレスマップを作るにあたって、日本地図を市単位で区切る必要があるが、「GEOJSON」というものを使う必要があり、参考資料が少ないため上手くっていない。
- 2 使用するデータをスクレイピングしてくるうえで、zip ファイルの状態でも共有されているものがあり、上手く持ってくる方法を探している。

- 1 コロプレスマップ作成のために必要な知識を勉強する.
- 2 スクレイピングの部分を早く仕上げる.